

# こおろぎ

発行日 2006年2月1日 **No.156**  
 発行元 株式会社  
 オリジン・コーポレーション  
 代表取締役：杉井保之  
 〒426-0044 静岡県藤枝市大東町777-1  
 TEL 054-636-4300 FAX 054-636-6187  
 E-mail [origin@ck.tnc.ne.jp](mailto:origin@ck.tnc.ne.jp)  
 URL <http://www.origin-co.com>

## 憧れのサロマ・ブルー

右のはがきは、美幌の安藤さんからいただいた年賀状です。

美幌の役場には素敵な方がたくさんいて、その中の一人に坂田太平さんがいます。

坂田さんは、今年で定年されるのですが、これまで20年連続で、サロマ100キロ・マラソンを完走しています。

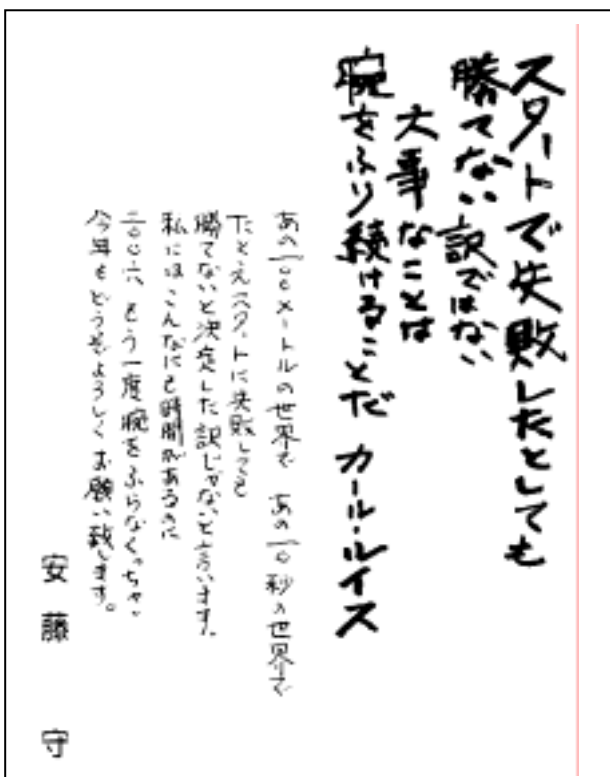
学生時代、運動をしてこなかった坂田さんが20年もの間、100キロ・マラソンを完走できたのは、人よりも運動が出来なかったから

だそうです。

若いころ速かった人は、年齢とともに下がっていく自分の記録を見るのがいやで、皆、走ることをやめていかれたそうです。

私はこの話を聞いて、過去の栄光と戦って現実の自分を受け入れていない自分に気づかされました。自分との競争ではなく、健康であること、走れることを楽しむために、もう一度走ってみようと思います。サロマ100キロ・マラソンを10回完走すると、ゼッケンの色が白からサロマブルーに変わるそうです。

完走出来ないと思いますが、今年、サロマに挑戦してみます！



## もうひとつの生き方

昨年末に、以前お世話になった会社が、大手の会社に吸収されることになり、ほとんどの社員が退職を余儀なくされることになりました。

そのことが発表された10月からの二ヶ月間に、いろいろな生き方があることを見せてもらいました。

営業部のA主任は、特に退職後の仕事を探す訳でもなく、「どうせもう終わりですから」と言っただけで、仕事にもパチンコをしているような話をしていました。

優秀だったB課長は、吸収が決まってすぐに資格試験の勉強を始め、就職活動もコツコツと行っていました。

皆さんなら、このような状況になったとき、どのように対応されますか？

「私はどうするのだろうか？」と考えてみたところ、私は手堅いほうの性格なので、B課長のように勉強をするかどうかは分かりませんが、早い時期から熱心に再就職先を探さずとも思いました。

年が明けた先日、たまたまB課長にお会いすると、これまでよりは少し下がったそうですがこれまでの給料とほぼ同じ条件の会社に再就職をされ、1月から元気に働いているそうです。

A主任がどうしたかを尋ねると、Aさんはしばらく失業保険をもらいながら仕事を探すと聞いていたそうです。おそらくアルバイトでもしながら好きなパチンコをされているのでしょうか。

その会社には、とても誠実で、お掃除にも参加してくれたC課長がいたので、C課長がどうされたかを尋ねたところ、C課長は「引き渡した時に汚い会社だと思われるのはいやだから」と就職活動もせず、会社を引き渡す年末まで事務所の整理や掃除をされていたそうです。

私には、Aさんの生き方も、Bさんの生き方もすぐに想像が出来ましたが、C課長のような生き方は思いつきませんでした。

こうした生き方が認められ、C課長は取引先から請われて、管理職としてこれまで以上の条件で再就職が決まったそうです。

### 今月の活動情報

活動を早く知りたい方は、ホームページで、

日程	内容	主催者・会場
2/1・2	道徳授業	(吉田町立吉田中学校)
2/4~5	経営塾	(オリジン)
2/5(日)	島田建設的な生き方を学ぶ会	(オリジン)
2/7(火)	南アルプス建設的な生き方を学ぶ会	
2/8(水)	「素敵な子どもを育てるために」	(森町立園田幼稚園)
2/9(木)	「失敗から学んだ社員育成法」	(雇用能力開発機構静岡)
2/10(金)	「人生訓」	(鳥取県渡辺病院)
2/11~12	東京経営塾「マネージメント・ゲーム」	(田町・コネクト)
2/13(月)	「現代の親業」	(葦山中学校)
2/16(木)	東京掃除に学ぶ会	(東京都新宿)
2/16(木)	東京建設的な生き方を学ぶ会	(田町・コネクト)
2/17~18	「マネージメント・ゲーム」	(浜名湖国際頭脳センター)
2/21(火)	浜松建設的な生き方を学ぶ会	(京丸園)
2/23(木)	「主任保育士のリーダーシップ」	(日本保育協会大阪支部)
2/24(金)	沼津経営塾	(沼津市民文化センター)
2/25(土)	沼津建設的な生き方を学ぶ会	(原地区センター)
2/25(土)	山中湖建設的な生き方を学ぶ会	(安心サービス)

このたびは盲導犬寄贈活動へのご支援をいただき、本当にありがとうございました。心から厚く御礼を申し上げます。

思えば、人生とは不思議なものであり、嬉しくも有難いもので、両眼が不自由にならなかつたなら、盲導犬寄贈の夢を抱くこともなく今日に至っていたことでしょう。

今の私の両眼は右はほぼ失明状態。左は視野十度程度、視力〇、〇五で、新聞も本も読むことが出来ません。自分で書いている文字もぼやけて見え、動で書いている状況です。

目が不自由になったことで、これまで多くのものを失ってまいりましたが、同時に多くのものを与えていただいています。

家族の愛。多くの人に支えられ生かされて生きていることの幸せ。障害を持つことは不自由ではありませんが、決して不幸なことではなく、むしろ幸福なことだと思えます。

今年、見えないから「やらない」を、見えないから「やる」のスタートの年にしようと思いを決めました。まず、手始めに日記をつけることを始めました。

次は、見えなくなつたので「やめた」ゴルフにも挑戦をと考えています。「私の人生、まだまだこれから」だ...。

お礼状がとりとめのものになりましたこと、お許しください。最後に「お伝えしたいもの」が、ご支援くださいました皆様にくれぐれもよろしくお伝え願います。

石川 健次